



桜花賞馬が二冠達成 エンブロイダリー

桜花賞馬の逆襲か、それともオックス馬の連勝か。牝馬三冠最終戦は、人気馬2頭の明暗が大きく分かれる結果となった。

春のGI馬2頭による「二強」の構図で迎えた秋華賞。単勝2.1倍の1番人気は、オックスに続き秋初戦のローズSも鮮やかに差し切ったカムニャック。オックスで9着と敗れて以来のレースとなる桜花賞馬エンブロイダリーが単勝5.5倍の2番人気となっていた。

レースを引っ張ったのは桜花賞、オックスに続き、またもエリカエクスプレスだった。カムニャックは紫苑S1着のケリフレッドアスクや同3着のダノンフェアレディらと好位を追走。エンブロイダリーはその直後で2コーナーを回っていった。

向正面に入るとエンブロイダリーが外から一気に上昇し、あっという間に2番手に上がった。1,000m通過は59秒4。初コンビの武豊騎手が軽快なペースで導くエリカエクスプレスと、それをぴたりと追走するエンブロイダリー。さらに外からは手綱を動かしながらカムニャックも迫るが、4コーナーで失速して下がっていく。

直線、突き放しにかかるエリカエクスプレスをエンブロイダリーが追う。差はなかなか詰まらなかったが、C.ルメール騎手が「ラスト200m

はすごくいい脚を使ってくれました」と振り返ったように、最後にもうひと伸びしたエンブロイダリーがゴール寸前で捉えて勝利。レース後、ルメール騎手は「オックスは距離が長くて残念でした。今回は勝つ自信がありました」とリベンジを喜んだ。

また森一誠調教師も「新種牡馬アドマイヤマーズ産駒ということではデビュー時から手探りでしたが、1,600から2,000mまでは大丈夫だと思っていました」と、この距離には自信を持っていたとのこと。桜花賞と秋華賞の牝馬二冠制覇は、2007年ダイワスカーレット以来18年ぶり史上4頭目だった(牝馬三冠馬を除く)。

第30回秋華賞 (GI)

10/19 京都競馬場 2,000m(芝・右) 曇・良 18頭

着順	馬名	性齢	斤量	騎手名	調教師名	タイム/着差	人気	通過順位
1	エンブロイダリー	牝3	55	C.ルメール	森 一誠	1:58.3	②	⑥⑥②②
2	エリカエクスプレス	牝3	55	武 豊	杉山 晴紀	1/2	⑤	①①①①
3	パラディレーヌ	牝3	55	丹内 祐次	千田 輝彦	3/4	⑥	⑩⑩⑩⑩
4	ジョスラン	牝3	55	岩田 望来	鹿戸 雄一	1 3/4	④	⑥⑨⑩⑩
5	セナスタイル	牝3	55	岩田 康誠	安田 翔伍	ハナ	③	⑩⑩⑩⑩

エンブロイダリー
栄光の蹄跡

11

アドマイヤマーズ 114 M
エンブロイダリー
ロッテンマイヤー(クロフネ)
2022.2.1 生 安平・ノーザンファーム



牝3
鹿
55
C.ルメール
1979.5.20生 B型
南シルクレーシング
森 一誠(美浦)

2025.5.25 東京
オックスGI
18ト1人 9(103)
55+。C.ルメール
芝2400良 2:26.7

2025.4.13 阪神
桜花賞GI
18ト3人 1(114)
55+。J.モレイラ
芝1600稍 1:33.1

2025.2.15 東京
デューラー杯クイーンCGⅢ
14ト3人 1(108)
55+。C.ルメール
芝1600良 1:32.2